

バロー久喜津店

取組内容詳細 及び 現地調査状況

1. 紙ごみの削減・再資源化の推進

- ・社内資料や会議資料のペーパーレス化
- ・OA用紙などの裏面の利用
- ・使用済封筒やファイルなどを社内便などに利用



- ・OA用紙や機密書類、シュレッダー、雑がみなどの紙ごみをリサイクル業者へ引き渡し



ポップはラミネート加工して再利用



紙製容器も集めて
リサイクル業者に引き渡している

2. 生ごみの削減・再資源化の推進

- ・水切りや分別による廃棄量の削減



三角コーナーを設置し、
生ごみの水切りを実施

- ・賞味期限切れ商品（売れ残り商品）の削減



3. 事業所ごみの再使用、再資源化の推進

- ・飲料容器（びん・缶・ペットボトル等）ごとの回収箱を設置し、個別に回収



4. 使い捨て用品の使用自粛

- ・仕入れや商品の搬送時の通い箱の推進



- ・割り箸やプラスチック製のスプーン・フォークは、必要な人だけに渡している

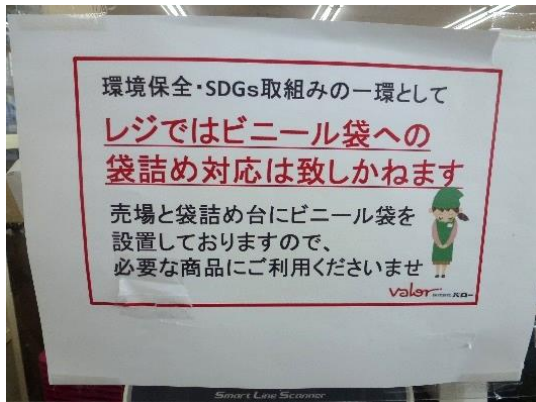


5. レジ袋削減に向けた取組の推進

- ・レジ袋等の有料化を実施
- ・レジ袋の使用削減のため、マイバスケットやエコバッグを販売



- ・レジでのビニール袋への袋詰めをやめ、必要な物だけ消費者が袋詰めするような仕組みづくり



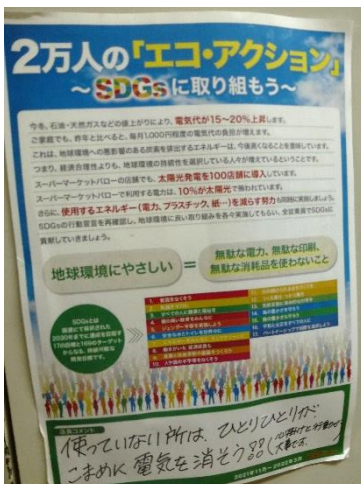
7. 資源ごみの店頭回収の実施店舗内でのごみ削減・再資源化啓発

- ・使用済み製品や資源物（缶、びん、ペットボトル、プラ容器包装等）、小型家電等、インクカートリッジなどを実施
- ・ペットボトルのキャップも分けて回収。



8. 店舗内でのごみ削減・再資源化啓発

- ・「エコアクション」 として SDG s に取り組んでいる。



10. 店舗内のごみ発生量等の把握

- ・年度ごとに発生するごみ量等を集計

1 1. 環境に配慮した商品の購入又は製造・販売

- ・バロー全店舗において、売り場やバックヤード全ての照明に LED を採用



- ・芯なしのトイレトーパーや繰り返し使えるペーパータオル等、ごみを減らす、環境に配慮した商品を販売



1 2. 社会貢献活動等の実施

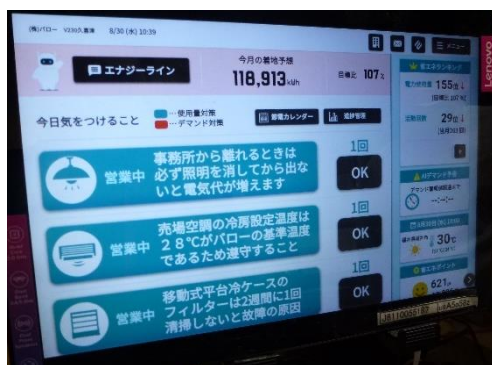
- ・環境に関する活動取組み内容の一般の方への公開

13. その他の3R推進に関する取組

- ・市と連携してフードドライブを実施



- ・電気を使い過ぎると通知が来て警告する、電気使用量の警報システムを取り入れている。また、店舗ごとの電力使用量を把握。



- ・「サステナビリティ・ビジョン 2030」の重点領域の一つに「地球環境」をテーマに掲げ、長期的なサプライチェーン上での温室効果ガス排出量の削減目標を設定。低炭素社会への移行を促す事業や温室効果ガス（GHG）排出量の削減、食品廃棄物の削減について積極的に取り組んでいる。

指標と目標

当社グループは、「サステナビリティ・ビジョン2030」の重点領域の一つに「地球環境」をテーマに掲げ、長期的なサプライチェーン上での温室効果ガス排出量の削減目標を設定し、低炭素社会への移行を促す事業や温室効果ガス（GHG）排出量の削減に積極的に取り組みます。

合わせて食品廃棄物の削減についても目標を設定し、積極的に取り組みます。

	基準	2023年度 前々年度比	2026年度	2029年度 サステナビリティ・ビジョン2030	2049年度 目標
脱炭素化社会の実現 CO2排出量	(2019年度実績*) 自社拠点CO2排出量 (電気由来) 233,486t	(2019年度比) 自社拠点CO2排出量 (電気由来以外を含む) 10%削減		(2020年度比) サプライチェーン上の 温室効果ガス排出総量 40%削減	サプライチェーン上の 温室効果ガス排出総量 ゼロ
食品廃棄物の削減 食品廃棄物発生量	(2016年度実績**) 18,983t	(2016年度比) 35%削減		(2016年度比) 45%削減	(2016年度比) 55%削減

注：*連結営業収益84%以上を構成する16社を対象に算出。**株式会社ハロー、株式会社タチヤ、株式会社食料館タイヨーで算出、今後はスーパーマーケット事業全体を対象を拡大。

脱炭素の取り組み

パローグループは、脱炭素社会の実現のため、全ての事業活動における温室効果ガスの排出削減に取り組んでいます。気候変動への対応策として、温室効果ガスの排出削減目標を定義し、目標達成に向けて取り組むと同時に、再生エネルギーの創出、利用エネルギーの削減に注力した活動を進めています。

具体的には、グループ内すべての事業設備、事業活動における電気、ガスなどの利用量の削減、及び再生可能エネルギーへの代替や再生エネルギーの創出を中心とした課題取り組みや、新規事業の創出を中心とする活動を行っています。特に2017年度より太陽光パネルの設置を進め、店舗、プロセスセンター、人材開発センターへの設置による増設、PPAモデルの推進を中心として、再生エネルギーの創出に力を入れて参りました。今後ともあらたな余剰電力循環モデルを導入し、設備の使用電力量に依存せず、グループ内の更なる再生エネルギー創出の機会を生み出していきます。



地球環境保全

フードロスの削減

フードロス削減に関しては、食品廃棄の原因になっていた納品緩和期限1/3ルールへの切替を始めとし、食品廃棄の削減につながる商習慣や運用ルールの見直しや、食品売切り技術の向上やグループ内ノウハウ共有などの事業活動の改善による食品廃棄削減を始めとし、農林水産省が提唱している“てまえどり運動”(すぐに食べるものは手前から手に取っていただく)の展開などスーパーマーケットに加え、食品を扱うドラッグストアにおいても食品廃棄の削減活動を行っています。また、社会貢献、次世代を担う子ども支援の側面からも賞味期限が近くなった食品をフードバンクを通して子供食堂等に提供しています。

資源有効活用

資源循環の促進

パローグループは持続可能な資源利用のために資源循環の促進に取り組んでいます。

弁当・惣菜用の木材利用割りばしの資源循環可能な間伐材や竹素材への変更、プラスチック素材のカトラリー（スプーン・フォーク）のコーヒーパーペーを使用した再生可能な素材への変更、およびプライベートブランド商品のプラスチック包材、容器の軽量化などを進めています。また、事業活動の中で発生した金属等の資源は自社物流網を活用し、自社物流センターに一旦集約して再生する等、効率的な資源循環にも取り組んでいます。